

# 世界へ羽ばたけ!日本のICT

## ICT(情報通信技術)の海外展開

この原稿を書いているちょうど1年前、私はミャンマー、ベトナムそしてタイと、複数国を跨いだ海外出張の真っ最中でした。ミャンマーでは、通信、放送そして郵便の分野での国づくりに積極的に関わり、テイン・セイン大統領に表敬する機会も得ました。ベトナムでは、多くの民間企業の方々とミッションを組んでトップセールスを行いました。そして、タイでは、ASEAN諸国と日本との間の情報通信大臣級会合に参加し、日ASEANの協力強化に向けた対話を行いました。

これらは、私達を取り組んでいるICT海外展開の一例です。国によって、歴史も文化も経済状況も千差万別です。日本ができること、相手国が

欲していること、それらをマッチングさせるために最も適切な方法は何か。単なる技術提供ではなく、人々の思いや願いをどう実現するのか。絶対的な答えはありません。自分達の持っているツールを組み合わせ、時には、新たな方法を編み出しながら、最適な解を模索し続ける毎日です。

国際協力というと、日本が一方的に与えるようなイメージを持たれるかもしれませんが、今やそういう関係ではなくなってきています。お互いに相手国のことを理解し、尊重し合うことで、信頼関係が構築されます。そのために、何度もアプローチを繰り返します。思うように物事が進まず、無力さを感じることも多々あります。でも、そういった一つ一つの頑張りや、やがて、大きな成果となって実を結ぶことに繋がっていくのです。

## ICTの強みとは

現在の安倍政権は、成長戦略の一環として、我が国のインフラシステムの海外展開に力を入れています。総務省もその一員として、政府全体のインフラ輸出戦略に貢献できるよう積極的に取り組んでいます。そのために、総理官邸に足を運んだり、関係省庁や機関と協議・調整を行ったりすることもしばしばです。ICTは、それ自体が重要な社会インフラであるのですが、道路、橋、電力といった他の社会インフラに組み合わせて活用することで、そのインフラの質を高め、より安心で安全な社会の実現に繋げることもできます。そういった特徴を持つICTを諸外国に展開することで、それらの国々が抱える様々な社会課題の解決にも貢献することができるのです。



総務省 情報通信国際戦略局 国際協力課長

## 木村 公彦

Kimihiko Kimura

平成 4年 4月 郵政省採用  
同 電気通信局電波部航空海上課  
平成 5年 7月 同 電気通信局総務課  
平成 7年 7月 同 電気通信局電気通信事業部 事業政策課主査  
平成 9年 7月 英国留学(プリンスル大学大学院)  
平成 10年 7月 総務庁人事局参事官補佐  
平成 12年 7月 郵政省簡易保険局加入者福祉企画課 課長補佐  
平成 13年 1月 総務省郵政企画管理局保険企画課 課長補佐  
平成 14年 1月 総務副大臣秘書官  
平成 14年 10月 総務省郵政企画管理局保険経営計画課 運用企画室課長補佐  
平成 15年 4月 同 電気通信事業紛争処理委員会事務局 上席調査専門官  
平成 16年 1月 同 総合通信基盤局電気通信事業部 料金サービス課課長補佐  
平成 17年 8月 同 総合通信基盤局電気通信事業部 事業政策課統括補佐  
平成 18年 8月 独立行政法人情報通信研究機構研究 推進部門国際推進グループマネージャー 兼ワシントン事務所長  
平成 21年 7月 総務省総合通信基盤局電気通信事業部 事業政策課調査官  
平成 24年 8月 警察庁長官官房国際課国際協力室長 兼刑事局組織犯罪対策部付  
平成 26年 7月 現職



ワシントン社任中ニューヨークにて

## 不確実な時代だからこそ 丁寧に、人に物事に向き合う

実際に海外に出て感じることは、世界が複雑さを増し、急激なスピードで変化しているということです。そういった環境下において、単に自分達が経験してきたことを当てはめるだけでは限界があると感じます。そういう状況に適応する

「新しい価値」を創造するためには、最後までやり遂げようとする粘り強さ、目の前のことに誠実に向き合い、自分自身の考え方を進化・変容させることができる柔軟性が必要です。そのために私自身が心掛けていた小さなことは、一緒に仕事をしている仲間、周りの関係者一人一人とのコミュニケーションをしっかりと取ること。謙虚な気持ちを忘れず、色々な意味で境界を越えて行

ける人材こそが求められていると思います。皆さん、自分の置かれている状況や自分の考え方に縛られていませんか。自分を枠にはめて、周りに壁を作っていませんか。壁は作るものではなく越えるものです。変化を求めて、自分の成長のために一歩踏み出してみてください。総務省には、そういうチャンスがあちらこちらに転がっていますよ。



若手職員の声 総務省 情報通信国際戦略局 国際協力課 永田 麻理恵 (平成27年入省)

ラオスの古都ルアンパバーン、ベトナムのダナン、クアラルンプール、セブ。私が出張や日々のやりとりで関係した都市の一部です。ASEAN10カ国を担当していると、国内外の関係者と連絡し、ASEAN主催の国際会議に出席するため、東南アジアの秘境に出張することもしばしば。全てが初めてで挑戦の連続ですが、1年目から私も2回の海外出張を経験し、学生時代から大きく世界が広がりました。

ASEAN諸国を始め世界100カ国以上を担当する国際協力課を率いる木村課長は、大局を見ながら刻々と変化する状況に対応しつつ、目の前の仕事も丁寧にこなす緻密なお仕事ぶりから、多くの職員に慕われています。課は、全力で仕事に打ち込みながらも、熱海への温泉旅行、福島へのスキー旅行、各国料理の食事を開催したりと、明るく楽しい雰囲気です。やりがいのある仕事と、尊敬できる素敵な先輩方に恵まれた幸せをかみしめつつ、今自分ができる業務に全力で取り組んでいきたいと思っています。

## Project ICTを通して世界の課題に挑む

ICTは、今や私達の日常生活に欠かすことのできない社会経済基盤となっており、我々は日々その恩恵を受けています。しかし、世界に目を向ければ、私達が何気なく、半ば当然のことのように感じているそうした恩恵を受けることが出来ない人達がまだまだ大勢います。

世界には、貧困、教育、医療、環境・気候変動など様々な社会課題が存在します。ICTは、私達の生活を豊かにし、それらの社会課題を解決するツールとなり、国、人種、民族といった境界(ボーダー)を越える力を与えてくれます。総務省は、日本のICTを積極的に海外展開することで、我が国の力強い成長に繋げるとともに、新興国等の経済発展、社会課題解決に貢献する取組を進めています。



ASEANの会議で発言する筆者